

# 「持続可能な遊休地対策で 次世代の農業のカタチ」

管理の比較的簡単なヘーゼルナッツ  
栽培が、日本の中山間地農業の課題  
を解決してくれる？

令和8年2月20日

株式会社フル里農産加工 代表取締役  
ヘーゼルナッツ学校 主宰 岡田浩史

# 取り組み概要（前職はアイスクリーム職人、パティシエ 食品加工機械の輸入商社で6次産業化プランナーの経歴）



雪の中のヘーゼルナッツとの出会いで日本で栽培できると考え農業経験ゼロで、役員だった商社を早期退職しヘーゼルナッツの6次産業化を目指し起業。

実がなったことで本場ピエモンテのヘーゼルナッツ農家さんを訪ね研修、苗木も輸入しながら、収穫した実を自社で製菓材料に1次加工し、さらに商品も開発して自社店舗とECサイトで販売しメディアの後押しもあり、全国から来客する特徴のある、収益の上がる次世代の農業ビジネスモデルを確立。

後に続く農業者のためにTTPの重要性を踏まえ、栽培・加工・販売までを履修できる収益を上げるための農業を学べるヘーゼルナッツ学校を設立。

# 背景：なぜヘーゼルナッツ？

- ①管理が楽で、高齢化する農業にも、新規就農者にも優しい農業であり、中山間地域の傾斜地(15°以下がいい)でも栽培が可能。
- ②加工前提の農産物であり、生の実よりも加工することで付加価値が1次加工、2次加工の2段階で収益が上がっていく。  
よって国が推し進めている6次産業化を持続可能な事業にし易い。
- ③全くの新しい農産物でありながら既に潜在マーケットを持っている。

## 現段階における課題点

- ①日本国内での栽培は始まったばかりでノウハウが乏しい。  
特に日本特有の病害虫への対応と木の仕立て方の違い。
- ②圃場がイタリアに比べ狭小なため、スマート農業への移行が困難。
- ③日本にあった栽培法を模索中で、確立ができていない。

# ヘーゼルナッツの栽培、収穫

『定植後 1 年目の圃場』



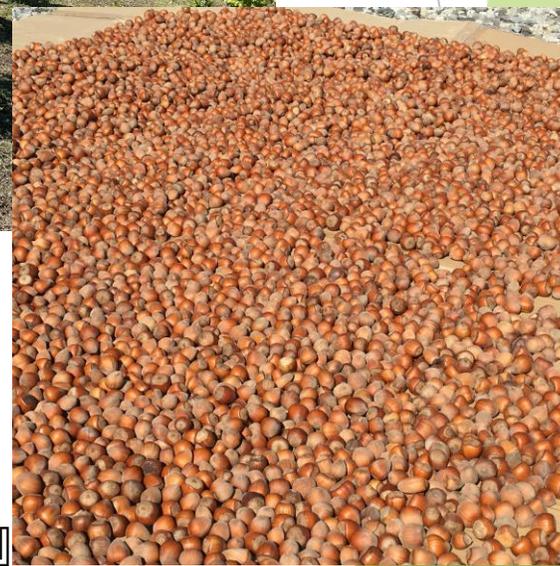
『定植後 5 年目の圃場』



『収穫の様子』



『天日干しの様子』



## 取り組み推進のプロセス

- ▶ ファーストアクション：ヘーゼルナッツ学校への参加、苗木の購入、栽培開始、生産者協議会への加入。
- ▶ 地域関係者：生産者協議会等を通じて栽培者の情報共有、長野市の補助事業による栽培者増加への応援、弊社とW大学と菓子製造大手M社とナッツ加工会社T社による農水省「知」の集積と活用の中産学官連携協議会でのコラボ、弊社直営店舗での販売情報の集約、菓子業界への提供
- ▶ 合意形成の過程：弊社の手法を学校で学びTTPにて再現してもらう。
- ▶ 取組決定後の動き：全国の自治体での研究会、協議会の発足や弊社講演活動等の後援体制、ヘーゼルナッツ学校への各自治体補助での農業者の送り込み事業。

# 連携による成果と課題

- ▶ 成果：そもそも論になるが、実際に成功している弊社のビジネスモデルの手法をTTPしていただくことで、連携という手段よりも農業者が加工前提とした農産物を栽培、加工、販売する6次産業化を推進したほうが、農業者にとってより収益の上がる事業となると考えている。そのために1億5000万円を投じてヘーゼルナッツ学校を設立し、そこで学んだ方々もきちんと収益が上がるようにノウハウを提供している。
- ▶ 課題：国が中心となって次世代の持続可能な収益の上がる農業を応援する体制づくりを今以上に推進するために、海外への研修応援制度の制定、苗木の購入補助や、新機就農希望者に対するの応援施策、圃場あっせん、学習希望者に対するの応援施策、学校卒業生への加工施設、設備投資への補助金制度などが必要になると思いますので、農水省にご協力を要請するものであります。

最後に輸入物と国産ヘーゼルナッツの食べ比べをしながら加工の工程をご紹介します。

# ヘーゼルナッツ収穫後の加工



ヘーゼルナッツ学校



異物除去機



乾燥機



選別機



殻割機

万能加工機

ヘーゼルナッツ菓子



焙煎機



粉碎機・磨砕機



研修後に監修させていただいたお店

